



VIVA防災

Magazine style paper Toward Disaster

発行 / TSP太陽株式会社



防災最前線 interview

INDEX

長野県警察山岳遭難救助隊が語る 遭難の現場から見えること。

八王子消防署管内の高尾山を
小型「山岳対応特殊救急車」が走る！
[東京消防庁八王子消防署]

アウトドアの知識と技術をもった
モンベルのアウトドア義援隊が活躍！
[株式会社 モンベル]

“家族の休日のお出掛け先に選ばれる”
がコンセプトの防災訓練「イザ！カエルキャラバン！」
人気の秘訣は3つの極意にアリ
[NPO法人プラス・アーツ]

防災 eye's 働く女性シリーズ [山の現場]
[檜原都民の森]

01

防災最前線
interview長野県警察山岳遭難救助隊が語る
遭難の現場から見えること。

近年、山岳遭難の件数は高止まり傾向にあり、全国の山岳遭難件数は昨年2495件、遭難者数は2929人に上り、統計が残る昭和36年以降では、前年に次ぐ過去2番目に高い数値となっています（警察庁生活安全局地域課「平成28年における山岳遭難の概況」より）。こうした状況のなか、山岳遭難の現場からは何が見えるのかを、救助のエキスパートである、長野県警察山岳遭難救助隊の皆さんに語っていただきました（文中敬称略）。

里山から北アルプスまで
さまざまな遭難が発生

▶長野県における山岳遭難の実態を教えてください。

榊引 これまではゴールデンウィークや夏休みなど、連休ごとに遭難が増えていましたが、最近は休みや曜日に関係なく、標高の低い里山から一番高い北アルプスまで、さまざまな場所で遭難が発生している状況です。携帯電話の普及によって、救助要請がしやすくなった背景もあるでしょう。

弦間 登山者は中高年だけでなく、20～

30代の若い人やお子さん連れのご家族も増えて、年齢層は広がっていますね。

岸本 山小屋の人とは、外国人観光客が増えたという話題にもなります。世界中の山の情報が、インターネットや動画で簡単に見られる時代になったので、いろんな場所に人が入って行くようになったのでしょう。

弦間 私は航空隊に所属しているので、ヘリコプターで北アルプスなど3000m級の山で救助活動をしますが、その一方で、県外からのツアーが里山のような場所で遭難した事例もあります。長野県内の人には、近郊の山へ山菜やキノコ採りに1人で出かけて、遭難する人も多いです。

榊引 冬から春はバックカントリー（以下、BC）の遭難も増えました。BCはスキー場のコースから外れた山の斜面を、スキーやスノーボードで滑走するものですが、遭難する人たちは、滑る山の危険性や細かなルート事前に調べておらず、滑走後に道に迷い、行動不能に陥ってしまうのです。雪崩の際に居場所を知らせるビーコンを付けていない人も多く、非常に危険です。

弦間 外国人観光客は、BC自体が目的で、長野の山に行く人が増えましたよ。

岸本 そうですね。谷や崖ま

ら斜面を上がるのは、ものすごく労力が必要なんです。外国人は土地勘もありませんから、スキー場から3～4km離れた山中で行動不能になって、ひと固まりでいた、ということもありました。

榊引 BCは日本人の若者も多く、実際、ある山の斜面には連日大勢のスキーヤーが来ています。こうした皆さんには安全第一に行動していただき、トラブルが起きた際の対処法まで考えて、装備や地図の準備を周到にしてほしいと思います。

天候の急変に備えた
早出早着が山の原則！

▶夏山シーズンにはどのようなことが起きていますか？

岸本 夏休み期間中は、長い休みを取って標高の高い山へ行く登山者が増えます。そのため稜線や岩場からの転落・滑落・転倒が多く、長野はこれらが遭難の約6割を占めています。登山は体に大きなストレスがかかり、夏は気温も上昇しますから、脱水症状を起こしたり、疲労から全身がつって動けなくなる人もいます。空気が薄く寒暖差も大きいので、心臓に負担がかかって倒れる人も出ます。

榊引 山は天候も急変しますね。夏は午後3時前後になると積乱雲の発達によって、雷が発生しやすい状態になります。長野の山は標高が高く、登山者が歩いている稜線は雲にすっぽり入ってしまうわけで、こうした場所の雷

組織概要

結 成 1960年（昭和35年）

隊員数 35名

編 成 ○警察本部山岳安全対策課
隊長（警部）、副隊長（警部補）、統括班長（警部補）の計3名
○山岳安全対策課航空隊（ヘリによる救助専門）
副隊長（警部補）他5名の計6名
○警備部機動隊（県内全域を管轄し、警察署の応援依頼に基づき派遣される部隊）
小隊長（警部補）他6名の計7名
○松本警察署（北アルプス南部地区担当・主として槍穂高連峰）6名
○安曇野警察署（北アルプス南部地区担当）2名
○大町警察署（北アルプス北部地区担当）5名
○茅野警察署（八ヶ岳連峰担当）4名
○駒ヶ根警察署（中央アルプス担当）2名

常駐拠点 北アルプス穂高連峰 滝沢常駐基地（春・夏・秋の一定期間）
その他の山域は山岳パトロールなどで対応

は、空から縦に落ちるのでなく、稜線を雷の電気が走ってくる状態になるので、もう逃げ場がありません。長野では過去に落雷で亡くなったたり、助かった方でも耳を悪くされたり、しびれ等の後遺症が残る人もいます。稜線を歩く場合は、雷が発生しやすい時間帯を避けるよう、早めに行動することが重要です。

岸本 早出早着（はやではやちやく）の行動を、ぜひ皆さんに徹底してほしいと思います。夏山なら早朝5時ぐらいの日の出から歩き始め、お昼も早めに済ませて、午後の早い時間には山小屋へ到着して、早めに就寝する。早出早着は安全に行動するための原則であり、昔からの山の常識です。私たちは山でのパトロール中や登山口で相談活動をするなか、早出早着の行動を登山者に呼びかけて注意喚起をしています。

航空隊と地上部隊が常に連携
二重、三重の安全策が重要

▶遭難が発生した場合、山岳遭難救助隊はどう動くのですか？

榊引 救助要請の一報は警察か消防に通報が入り、遭難発生認知をすると、現場、ケガの状況、天候などの情報を収集します。長野の場合、今は約8割をヘリコプターで救助していますから、ヘリ救助を専門に行う「航空隊」と情報を共有します。と同時に、悪天候であればヘリは飛ばせませんから、機動隊や警察署の救助隊から地上部隊を編成して、

空と地上の両方から救助の準備を進めます。

弦間 私は航空班の班長を務めています。航空隊は松本空港内にあり、そこに警察ヘリのやまびこ1号・2号を配備して、1番遠い山でも、離陸後約30分で到着できる体制になっています。ちなみにヘリは飛行できる限界高度が約3000mで、高度が上がるほど機体にかかる負荷が大きくなり、人を乗せることが大変になってくるのです。救助活動中は空中停止もするため、少しでも機体を軽くするよう、パイロット以外の座席は取り外し、私たちは機内のバーから下がるロープを腰の安全ベルトに固定して、機内に座っています。また燃料は満タンにせず、遭難者を最大2人救助して下山することを計算し、ギリギリの燃料しか積んでいないのです。

こうした事情から出動できる人数も限られ、通常はパイロット2人、整備士1人、救助に当たる山岳救助隊員1～2人がヘリに乗って行きます。少人数の編成ですべての救助活動を行うので、1人ひとりの果たす役割や責任が大きく、また体力も必要ですから、この点は苦勞をしているところですね。

岸本 航空隊と同じく、地上の救助部隊も体力勝負です。昨年2月末に、八ヶ岳の稜線で4人のパーティーが滑落し、1人が死亡する事故が発生しました。その日、麓はマイナス15度でしたが、生きている遭難者を救助するため、機動隊の精鋭部隊が麓から雪山を登って行ったのです。稜線上は強風が吹いて、マイナス30度ぐらいになっていたのではないのでしょうか。非常に過酷な環境で、生存

interviewee

長野県警察山岳遭難救助隊
隊長

榊引 知弘さん

隊歴 18年目

長野県警察山岳遭難救助隊
副隊長（航空班班長）

弦間 将樹さん

隊歴 21年目

長野県警察山岳遭難救助隊
統括班長

岸本 俊朗さん

隊歴 10年目





航空隊で点検・整備中の「やまびこ2号」。ヘリは25時間稼働する度に、約1週間の点検が必要。また年1回の耐空検査ではオーバーホールも必須なため、1機で年間約200時間程度の飛行となる

者を無事に救助して下山したとき、隊員の顔面は凍傷に近い状態になり、部分的に黒くなってしまったのです。悪天候は、救助する側にも大きな負担がかかります。

榎引 先ほど長野の山岳遭難は転落・滑落・転倒が多いという話が出ましたが、つまりは人が遭難した危険な場所に隊員たちはロープ1本で下りて行くわけですから、航空隊も機動隊も、救助活動は本当にハイリスクです。

岸本 そうですね、先ほどの八ヶ岳の事例のように、生存者が極寒のなかで待っている状況もあり、そうすると救助隊員には、どうしてもムリがかかるわけです。若いときは経験が浅く、私も雨や雷でも救助に行きたい、とはやる気持ちがありました。しかし救助の現場は何より安全が第一ですから、救助に行けるのか、いったん待つか、という判断は重要で

すし、その決断はとても難しいところだと感じます。

弦間 ヘリの場合は、現場が岩場や樹林帯、あるいは落石や雪崩の危険があったり、周囲に登山者がいる場合は、遭難現場に近づくことができないのです。そのため、どの場所に救助隊員を下して、遭難者と共に安全に吊り上げるかを、私が指揮官として判断して、メンバーに指示を出さなければなりません。ヘリ救助はスピードが必要ですから、そのなかで、絶対にミスはしない、すべてを安全に、という気持ちをもって素早く判断を下すことは、毎回、緊張感を覚えます。

榎引 私は本部にいますから、まずは現場の情報をできるだけ集めて、ヘリで救助できない時は、地上から機動隊の精鋭部隊や警察署の救助隊を送り込むなど、常に二重、

三重の安全策を臨機応変に講じることが重要だと考えています。

ここは私の理念ですが、救助には勝ち負けがあり、例えば遭難者や救助隊員にケガをさせてしまったら、それは負けになると思っています。そのため現場の安全が確保できない場合は、いったん引いて、絶対に負けない次の一手を考えなければなりません。山岳救助隊も警察官ですから、みな正義感が非常に強く、遭難者がいたら絶対にムリをしまいがちです。そうした熱い気持ちを抑えて、安全な救助活動を継続することが、私たちの使命であり、救助活動全体を統括する私の役目であると思っています。

登山者の行動と心がけで遭難の数はきっと減らせる！

▶遭難を少しでも減らすため、私たちはどんなことに注意をすれば良いのでしょうか？

榎引 夏山には本当に多くの登山者が訪れ、初めての山登りで北アルプスに来た、という人も大勢います。天候に恵まれ登山道のコンディションもよく、何ごともなく下山していただければひと安心ですが、いったん天候が崩れたり道に迷ったとき、果たして初心者の方にはどんな判断が下せるのかと心配になります。いきなり標高の高い山へ来るのは、本当に危険ですから止めていただきたいと思っています。登山ビギナーの皆さんにはまず、標高が低い山、または山小屋が近い所などで登

山の経験を十分に積み、体力も付けてから、最終的に標高の高い山を目指すという、確実な段階を踏んでほしいと思いますね。

弦間 私もそう思います。ここ最近のヘリの救助事例を見ても、ある雪の斜面のまったく同じ場所で、似たような滑落事故が3件連続で発生しています。これは登山者が雪の斜面を下りる技術や、必要な装備を持っていなかったことが原因だと考えられます。

初夏の北アルプスには当然雪があり、雪上での滑り止めになるアイゼンやピッケルを用意して、ヘルメットを被らなければいけないような場所です。そうしたことを調べず、コースタイムだけを見てこのコースを歩こう、と決めるのは本当に危険なのです。山小屋が開業していない時期に、果たして登山道が安全に歩けるのか？自分の技術と体力は大丈夫か？今ある装備で登れる山なのか？ということをしっかり見極めて、安全な登山を楽しんでほしいと思います。

岸本 登山はスポーツ的な側面もありますから、ぜひ普段からトレーニングをして、体調管理に努めてほしいと思います。そうすれば、つまずきや転倒リスクが軽減できるものと思います。山は高齢の方が事故に遭っているケースが多いので、自分の足でコースを踏破できる体力を付けてきてほしいですね。

榎引 事故は長く歩いて疲れた夕方、特に下山中に起こることが多く、110番通報もその時間帯に増えます。そうすると日没ギリギリですから、ヘリを飛ばすか、機動隊を動かすか、ピバーグ（野営）してもらうのか、という判

断になってきますから、救助要請の意味からも、早出早着の行動は重要です。

そして万が一、道迷いの可能性が高まったなら、警察や消防などの救助機関に電話をして、自分の存在を早めに認知してもらうことが大事です。道迷いであれば、そこまで歩いてきたルートをわれわれが確認したうえで、正しい登山道の方角を教示した結果、無事に下山できた事例があります。またパテの場合も、“救助隊も出しますが、動けるようであれば少しずつでも良いので歩いてください”と伝え、結果的には、救助隊が準備をしている間に下山できたケースがあります。早めの通報でアドバイスが受けられることもありますので、行動不能になる前に、適切な判断をしてください。

▶最後に読者の皆さんへ、メッセージをお願いします。

弦間 秋になれば長野の山は朝晩の冷え込みが厳しくなり、氷点下になる日も出てきます。山頂付近は急速に冬山へ近づいて行きますから、防寒対策をしっかり整えて、信州の素晴らしい紅葉を楽しんでほしいと思います。

岸本 私は家族で山登りをするとき、慎重に下調べをして、きちんと登山届を出して、全員で掛け捨て保険にも入ります。誰もが遭難の可能性があるので、ということを心に留め、謙虚な気持ちで自然と向き合ってください。

榎引 山登りは自然が相手ですから、それな



航空隊の装備はロープ、遭難者に付けるハーネス、ビデオカメラ付きのヘルメット。撮影した映像は新人の指導などに活用する

りの危険があることを覚悟して、トレーニング、装備、下調べ、保険などに気を配っていただきたいと思います。そうした事前準備も、ぜひ山の楽しみにして、長野県の雄大な山岳風景を、安全に！満喫してください。

貴重なお話し、ありがとうございました。



ヘリのドア上部にある銀色の箱はホイスト。なかにある90mのワイヤーを使って遭難者と救助隊員を吊り上げ、ウィンチで巻き上げる

◆ロッククライミングやロープワーク、人や荷物を背負って歩く山行など、救助隊は厳しい訓練を積んでいる



◆雪山に登る過酷な訓練



02 | 東京消防庁 防災NEWS

八王子消防署管内の高尾山を 小型「山岳対応特殊救急車」が走る！

東京消防庁八王子消防署では、2017年4月22日から「山岳対応特殊救急車」の運用がスタート。同月19日の運用開始式では、マスコミ各社に新型救急車が披露されました。車両導入の目的と特徴を紹介します（取材4月19日）。

救急搬送活動の時短を目指して「山岳対応特殊救急車」を導入

八王子消防署管内に位置する標高約600mの高尾山は、都心からのアクセスがよく、誰もが気軽に登れる山であることから、年間300万人もの登山客が訪れ、その数は世界一とされています。そうした理由から、高尾山はケガ人や急病人の発生も多く、毎年100件前後の救急事案が起っています。八王子消防署警防課 救急係 救急技術担当係長 消防司令の原口存経^{ながのぶ}さんは、

「救急事案の具体的な例として、段差による転倒受傷、急病、あるいは飲酒により体調を崩すなどが発生しています。こうした傷病者に対して、今まで以上に早く救急処置が行えるよう、高尾山の狭い山道を走行できる【山岳対応特殊救急車】を導入しました。車両の最大の特徴は、現行の救急車に比べて、かなりコンパクトな車体であるという点です」と説明します。

小回りの効く小型救急車 自動式心臓マッサージ器も搭載

高尾山には物資輸送に使われている、メインの登山道「1号路」があり、麓から山頂へは車両で上がることができます。しかし道幅が狭く、現行の救急車の大きさでは走行が不可能でした。そのためこれまで、救急車両以外の車両で傷病者を搬送していましたが、できる処置は限られ、搬送さ

れる傷病者にも大きな負担がかかる状況でした。そうした課題を解決するべく導入されたのが、今回の【山岳対応特殊救急車】です。従来の救急車より全長1.5m、幅20cm、高さ40cmと小型化したため、1号路の山道が走行可能になったのです。



◆マスコミ各社に車両の特徴を説明する、消防司令の原口存経さん



◆人形の胸部にあるのは、山間部の急斜面でもより安定的に稼働する胸骨圧迫心臓マッサージ器



◆「特殊救急車運用開始式」で行われた、救急隊による救命処置のデモンストレーション

新型車両の強みについて原口さんは、「車体は小さくなりましたが、ケガ人などを乗せる傷病者室の幅は現行の救急車に比べて10cm縮小にとどめることができ、救命処置を行うスペースは最大限確保することができました。救急活動に必要な資器材も、現行の救急車と同様ですから、小型の救急車においては、現場で救急処置を行い、今までよりも短い時間で、かつ処置を継続しながら搬送でき、医師の管理下へいち早く置けるようになります」と広報しました。



◆幅・高さともに小型化した車両。悪路でも機動性が高い四輪駆動タイヤを採用し、林道への進入も可能になった

03 | 特集
special editionアウトドアの知識と技術をもった
モンベルのアウトドア義援隊が活躍!

アウトドア用品のメーカーとして42年の歴史をもつ(株)モンベルは、組織を挙げて「アウトドア義援隊」を結成し、災害時には国内外の被災地支援に尽力。そうした活動が広く知られ、現在は県など15の行政と「包括連携協定」を結んでいます。取り組みを常務取締役広報部本部長の竹山史朗さんに聞きます。



⚡(株)モンベル 常務取締役 広報部 本部長
竹山史朗さん

アウトドアの経験があると
災害時に必ず役に立つ!

「アウトドア義援隊の名前を最初に使ったのは、阪神淡路大震災のときです。大阪に本社を置くわれわれが先頭に立って動くことと決め、同じ業界に広く協力を呼びかけ、物資やボランティアを集めました。被災地のど真ん中にある六甲店を拠点とし、そこに義援隊の看板を立てたのが始まりです」。結成当時の様子を話してくれたのは、(株)モンベルで常務取締役広報部本部長を務める竹山史朗さんです。ご自身も交通網が寸断された神戸の街を自転車でのびのびと走り、着の身着のままの人たちが集まる公園で、テントや寝袋などの物資を配布する経験をしました。野外生活に戸

惑う人たちに、ボランティアとともにテントの張り方を教えて回りながら、「アウトドアの経験があると災害時に必ず役立つ!」と確信したと語ります。

(株)モンベルは、日本のトップクライマーである辰野勇氏が登山用品メーカーとして1975年に創業。現在はアウトドア用品の製造・販売、イベント運営企画、保険、飲食を手掛ける総合企業であり、直営店は全国に114店を展開し、モンベル会員(会費制)も76万人を突破する堅調ぶりです。また同社は社会貢献活動や災害支援にも力を入れ、阪神淡路大震災以後も、さまざまな団体へ物資を提供する活動を続けてきました。



⚡義援隊 阪神淡路大震災

アウトドア義援隊が再始動
支援の輪が全国に広がる

そうしたなか、2011年に東日本大震災が発生し、アウトドア義援隊が再始動をしたのです。社員をすぐに仙台へ派遣し、物資を積んだトラックも走らせました。その後は山形県天童市の空き工場に、社員やボランティア、地域の皆さんが集結。自社のテントや寝袋、防寒着、食料、燃料のほか、全国から届く救援物資を仕分けて、沿岸の被災地へ届ける活動を続けました。モンベルが発災直後から活動できた理由を竹山さんが話します。

「当社の1番の強みは人です。社員は皆、アウトドアをやっていますから、被災地で寝泊まりしながら支援活動をしてくださいと言えば、すぐにテントを担ぎ、単独で行動できます。水や電気がない状況はキャンプで経験しているし、食料と燃料がこれだけあれば2~3日は暮らせる、という感覚も身に付いています。つまりは状況の厳しい被災地でも、自己完結しながら支援活動できる人間が社内で大勢いるから、組織として小回り良く、スピーディーに動けるのです」。

同社がボランティアを一般募集した際も、衣食住を自力で賄えることが必須条件でしたが、それに応えるべくアウトドアの達人が全国から集まり、加えて直営店にもモンベル会員から物資や募金が寄せられ、アウトドア義援隊の輪は日本中に広がったのです。その後、同社は災害現場から得たリアルな知見をもとに、災害時にも役立つアウトドア用品の開発



⚡熊本地震の際にアウトドア義援隊の活動拠点となった、モンベル南阿蘇店



⚡モンベル店内の防災用品コーナー



⚡義援隊 東日本大震災

に使命感をもって臨み、またホームページ上では【暮らしの中の防災 ~アウトドアの知識をいかす~】というコンテンツを立ち上げ、防災・減災に必要な知識や役立つ用品の情報を随時更新。アウトドアを通した、防災への意識向上に努めています。

県などの行政と進む包括連携協定
モンベルを核にネットワーク化を!

現在モンベルは15の行政との間に「包括連携協定」を結び、エコツーリズムの促進や健康増進、災害対応などに協力しています。そして今後は協定先が20、30と増えるなか、行政同士もつなぐネットワークを築きたいと考えています。

「例えばテントは、ひとつの自治体が大量に備蓄するのは負担が大きいです。そこで、当社と協定を結ぶ行政同士がネットワークをつくって同じテントを持ち合えば、貸し借りが

できるし、その際テントの仕様が統一されていれば、避難所でのテント張りが混乱なく済みます。また行政同士の救援用具がある程度同じであれば、避難訓練も均一化が図れ、災害時には行政同士が効率よく助け合えるものと思います。そうしたネットワークづくりを進めること

が、われわれの果たす役割だと考えます。アウトドア義援隊の1人として、阪神淡路、東日本、熊本などの被災地支援に携わった竹山さんが、最後にメッセージを送ってくれました。「アウトドアやキャンプの経験が、ライフラインが断られたなかでの対応力につな

がります。そうした経験を個人の力に、あるいは家族力として育むことが、私はとても大切だと思います。災害時に支援がないと生きていけない、ということにならないよう、ぜひ多くの皆さんに、アウトドアライフを楽しんで頂けたらと思います」。



⚡義援隊 熊本地震

モンベル発! 山の安全コラム

秋は紅葉が美しく、山登りやハイキングには絶好の季節。しかし天気は変わりやすく、標高が高ければ雨が雪に急変することもありますから、決して無理はせず、心に余裕をもって行動することが大切です。山の装備で特に気を配りたいのはレインウェアです。日本は雨が多く、体が濡れると低体温を引き起こしかねませんから、万全の雨対策を心掛けましょう。また秋口は朝晩の寒暖差が大きいため、薄手のダウンジャケットがあると重宝します。

株式会社 モンベル

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目2番2号
モンベル・カスタマー・サービス TEL.06-6536-5740
<http://www.montbell.jp/>

04 | REPORT

“家族の休日のお出掛け先に選ばれる”
がコンセプトの防災訓練「イザ!カエルキャラバン!」
人気の秘訣は3つの**極意**にアリ



イザ!
カエルキャラバン!
MESSAGE FROM 1995 AT KOBE

NPO法人プラス・アーツが考案した防災訓練「イザ!カエルキャラバン!」は、若いファミリー層から人気が高く、主催者側の行政や企業からは、抜群の集客力が高く評価されています。家族や地域が楽しく防災を学ぶために必要な3つの極意を、プラス・アーツ東京事務所の小倉丈佳さんが語ります。



NPO 法人プラス・アーツ
東京事務所長
小倉丈佳さん

極意その1
おもちゃの“かえっこ”で
子ども心をわし掴み!

「イザ!カエルキャラバン!」は、日ごろ防災訓練に参加しないご家族をターゲットに据え、【おもちゃの交換会】で集客しているのが最大の特徴です。告知チラシでは「使わなくなったおもちゃを持って集まれ!」と呼びかけ、それを「かえっこバンク」でポイントに交換すると、もらったポイント分、他の家庭から持ち込まれたおもちゃを買うことができます。会場には魅力的なおもちゃが多数あるため、子どもたちはお目当ての物がどうしても手に入れたいくなります。そこで、会場内にある防災訓練のワークショップに参加し、ポイントを集めるとい流れになっています。この仕組みにより、子どもたちは防災訓練に何度も参加しながら、遊び感覚で、



おもちゃの交換会

消火器の使い方などを体で覚えて行くわけです。イベントの最後には、お楽しみのおもちゃオークションも設けているので、子どもたちは積極的に、さまざまな訓練にチャレンジしてくれます。

極意その2
阪神・淡路大震災の教訓を
しっかりと伝える!



毛布で担架タイムトライアル

私たちプラス・アーツは神戸が本拠地で、カエルキャラバンの防災訓練ワークショップでは、阪神・淡路大震災で得た教訓や知見を伝えたいと考えています。例えば震災時、ケガ人を運ぶ担架が圧倒的に足りず、毛布や畳、戸板で代用しました。それを擬似体験するのが「毛布で担架タイムトライアル」です。また同時多発的に火災が発生し、いくら待っても消防車が来なかったため、地域の力で消火をする必要があり、それが「対決!バケツリレー」になりました。「紙食器をつくろう」は、新聞紙で作った皿などにビニール袋や



対決!バケツリレー

ラップを被せて食器にするもので、この知恵は、現在、防災のスタンダードになっています。カエルキャラバンはおもちゃを介したイベントですが、決して遊びではなく、“防災の知識と技を伝えるための手法”であることを、主催者の皆さんには丁寧に伝えています。



紙食器をつくろう

極意その3
地域みんなで企画すれば
防災訓練が活性化する

沖縄のある公民館がカエルキャラバンをご当地化しました。道具一式を主催者側が手作りした他、キャラクターは本家のカエルから家を守るヤモリに変わり、人形劇にはシーサーが登場し、イベント名は「リッカ!ヤールキャラバン!」(沖縄の言葉でイザ!ヤモリキャラバンの意)になりました。こうしたご当地化を私たちは推奨しており、地域みんなで企画することで、人が集まり、お祭りのように、地域が盛り上がるのだと思います。カエルキャラバンは、誰もが使えるプラットフォームであり、コミュニティを育む効果もあると実感しています。ぜひ多くの団体にご活用いただき、防災訓練を地域に根付かせていってほしいと思います。

NPO 法人プラス・アーツ

〒135-0021 東京都江東区白河3-7-6 白3木下ビル101 TEL 03-6458-5375 <http://www.plus-arts.net/>

information square

(株)モンベル発
水害に備えて! いつも近くに!
身近に置けるライフジャケット

「**う**浮くっしょん
(大人用・子ども用)」

災害時にも役立つアウトドア用品を販売している(株)モンベルが、東日本大震災の津波を教訓に開発したのが、水害に備えた「浮くっしょん」です。ライフジャケットを折り畳み式のコンパクトなクッション型に改良したことで、学校や職場、リビングや車の中など、身近な場所にいつも、違和感なく置くことができるようになりました。本体にはIDカード入れ、反射テープ、ホイッスル、水中からの引き上げハンドルを装備。数10秒で装着可能な優れものです。問い合わせP9参照。



(撮影協力/モンベル広報部 主任 森野 藍さん)



3.11 東北を忘れない... Vol.9

7/30(日)に、仙台市若林区の「深沼海水浴場」で「あらはまワイワイキャンパス」が開催されました。市内唯一の海水浴場として長年市民に親しまれていたのですが、震災以降は遊泳ができない状態でした。しかし震災から6年が経ち、安全性が確認されたので、今後に向けて、2日間という期間限定、対象者も限定したイベントとして行いました。



残念ながら初日(7/29)は荒天のため中止、2日目は砂浜でのイベントは開催できませんでしたが、高波のため遊泳はできない状態でした。しかし地元の小学生を中心にビーチバレーやスイカ割り、サンドアートなどを楽しむことができました。最後は参加者全員でビーチクリーン活動を行い、このようなイベントを開催することに感謝して終了しました。

このエリアは震災後、災害危険区域に指定されているということもあり、地元の方が中心となって運営していた海水浴場を今後再開する場合、誰がどのように運営していくのか、震災前のような賑わいを求める方も多中で、避難場所の確保を始め、こういった課題があるのかを今後整理していきたいです。仙台市としては深沼海水浴場に隣接する跡地活用の事業も並行して進んでいくので、被災した東部地域の賑わいを取り戻せるよう取り組んでまいります。

仙台市文化観光局
観光交流部観光課 課長 成瀬一哲



登山の準備はしっかりと!



~くらしを守る 企業を守る 社会を守る~
レスキューツール
LUKAS eドローリック (第2世代)が **新登場!!**
第2世代の特徴
□スイッチオンで直ちに救助!
□2電源方式!(Liイオンバッテリー、AC100V) SP555E2 スプレッダー
□使用時間約1時間! 軽量化!
S312E2 カッター SC250E2 コンピツール
電動油圧救助資機材
帝国繊維株式会社 [本社]〒103-0027 東京都中央区日本橋2-1-10 柳屋ビル7F
TEL:03-3281-3033 FAX:03-3274-6397 <http://www.teisen.co.jp>

Normeca Asia
SUPPLIER OF MEDICAL EQUIPMENT
日本で最初に災害・救急医療を導入!
「正しい教育」と「正しい装備」を提供します!
<http://www.normeca-asia.jp>
株式会社ノルメカエイシア 東京都台東区浅草橋3丁目19-3
TEL:03-5687-3899(代) FAX:03-5687-3911

災害現場で活動する人々を応援する カタログ&情報マガジン
Rising
Personal Protect Equipment for Fire Fighters of Japan
<http://rise-nippon.co.jp>
RISE 株式会社ライズ
〒730-0055 広島市中区南千田西町4-11
TEL.082-241-0119 FAX.082-241-0118

株式会社 尾 消防用品総合商社 [URL] <http://www.akao-co.com/>
ホルマト油圧救助器具 消防特殊車両 消防服装関係
□東京営業部: 東京都千代田区外神田 6-13-13 TEL: 03-3832-2201 FAX: 03-3833-6217
□大阪営業部: 大阪市西区新町 4-13-1 TEL: 06-6532-4131 FAX: 06-6536-7456
□福岡支店: 福岡市博多区那珂 3-11-20 TEL: 092-431-9221 FAX: 092-451-3433
□名古屋支店: 名古屋市東区葵 3-23-10 TEL: 052-934-2611 FAX: 052-934-2615
□仙台営業所: 仙台市青葉区花京院 2-1-61 TEL: 022-722-0884 FAX: 022-722-0796

都心から約50km離れた「檜原都民の森」は、登山や自然観察、木工体験が楽しめる山岳公園です。森の自然を楽しみながら安全管理に取り組む小林所長の声を紹介しします。



小林 泰代さん

ひのほら
檜原都民の森
管理事務所 所長

Q1 お仕事の内容を教えてください。

都心から50km離れた、標高1000～1500mの高地に広がる山岳公園が「檜原都民の森」です。私はこの森の指定管理者である檜原村の職員として、2017年4月から管理事務所の所長を務めています。主な仕事は運営管理の統括ですが、赴任して4カ月の新人ですから、経験豊富なスタッフとともに自然の素晴らしさを発信し、森の安全に努めて行きたいと思っています。



この施設には森の生態系に詳しい自然指導員がいて、来園者を案内して歩く「自然教室」や「大自然塾」が人気を集めています。また施設内の「木材工芸センター」では、初心者でも木箱や時計作りが気軽に体験できるよう、木工指導員が丁寧に指導をしています。こうした専門的な技術や自然の知識をもった指導員、そして園内各所で働くスタッフみんなの存在が、この施設の素晴らしいところだと感じています。実は鳥の鳴き真似が上手な自然指導員がいて、その人が歩くと野鳥が寄ってくるのです！森には驚きや感動がたくさんありますから、そんな楽しさを多くの方に体験してほしいですね。

Q2 檜原都民の森の自然の魅力は？

着任した4月1日に積もるほどの雪が降り、春の森が白銀の世界へ一気に変わったことは本当に驚きました。森を歩けばタヌキやテン、リスなどの野生動物に遭遇！オオルリやウグイスなどの野鳥も見られるし、野草や樹木の種類も豊富で、自然の宝庫のような場所だと感じています。私も植物の成長過程を写真に撮って、パソコンで図鑑を作るようになったんです。

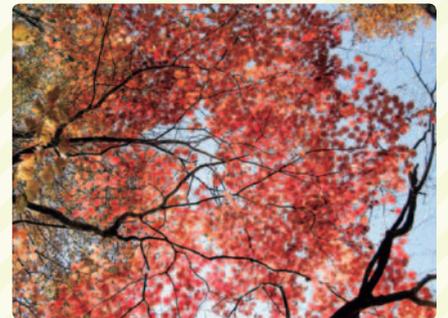


●木材工芸センターで製作できるもの

地形や自然を壊さず安全を保つことが、私たちの役割だと思っています。そのため登山に来られる方にはぜひ、体調と脚力を考慮していただき、無理をせず自分にあった山歩きを楽しんでいただきたいと思います。また、登山靴や熊よけの鈴、電動車椅子の貸し出しもありますのでご利用ください。

Q4 秋からのイベントは？

例年、10月上旬からは紅葉が始まり、さまざまな色が森を彩ります。この時期は「カエテ類ガイド」や「木の実のリース作り」といったイベントがたくさんありますから、ぜひホームページをご覧ください。また標高1531mの三頭山にちなみ、2018年3月10日には「三頭山の日」のイベントを計画していますので楽しみに！



Q3 森の管理者として安全・安心のために気を配っていることは？

園内はスタッフが巡視し、危険な箇所があればその都度修理を行っています。ただここは大自然の森ですから、あるがままの自然を残しつつ、保守や安全管理を行うことが大切だと考えています。例えば山道に危険な箇所があった場合、ただ通りやすききれいに整備するのではなく、

檜原都民の森 管理事務所

〒190-0221 東京都西多摩郡檜原村 7146
TEL. 042-598-6006
<http://www.hinohara-mori.jp>

編集後記

山は、誰でも行ける場所でありながら、とても危険な場所という認識を持って、多くの人が楽しめるような場所でありたいです。もしもの時に、何が必要で、山の特徴やどんな災害が起きやすいかを改めて考えさせられました。また、その時に備えて、様々な機関が日々訓練や業務を行っていることを知る事ができてよかったです。

編集員／伊藤 雅宏



防災用空気布団 - 安心の Made in Japan -

非常時の睡眠を高機能でサポート!
ホワイトエアーマット

専用のハンドポンプで空気が入ってもラク!
●肌触りが良く快適!
●丈夫な四層構造で長持ち!
●空気圧が小さく身体に当たりづらい!

【製造者・販売者】
幸立化成工業株式会社
【お問合せ先】
TEL.049-297-5611
幸立化成 検索

自治体の皆さまへ
冷たい床の上でも暖かく寝心地バツバツ!
避難生活の必需品!
コンパクトにまとめて保管がラク!

